

患者さんに
役立つちょっと
いい話

かわら版

相澤病院 医療連携

2020.9 NO.2



今回は、相澤病院の救命救急センターでも近年多い重い病気の「急性心筋梗塞」の初期症状、治療法についてご紹介します。

急性心筋梗塞って何？

日本人の死亡原因の第2位を占める心臓病。その約半数が、心臓の血管の内側が狭くなる（詰まる）ことで起こる「心筋梗塞」や「狭心症」などが原因です。急性心筋梗塞では、約30%の人が亡くなっており、その多くは発症してから短い時間の死亡で、命にかかわる病気の1つといえます。

「発作が運動の時だけでなく、安静にしている時にも起こるようになった」「発作の頻度が高くなった」「発作の時間が長くなった」などの変化があれば、狭心症が悪くなっている可能性があります。心筋梗塞（急性心筋梗塞）になる危険性があるので、ぜひ医療機関に相談してください。心筋梗塞を起こした人の半数以上が、発症前の1週間以内に、「運動時に苦しかった」などの前兆を感じています。何か前兆を感じたら、医療機関に相談しましょう。

24時間365日 カテーテル治療が可能です

当院では5人の医師で夜間緊急のカテーテル検査を含め、万全の体制で対応しております。今年5月からは血管を撮影する機器が更新され、以前に比べ、より鮮明な画像で速やかに対応できるようになりました。

また、当院で導入している320列CTを活用し、血管の状態を確認する必要がある患者さんに対し、立体的な画像として、患者さんの負担を少なく撮影しています。



ご存じですか？相澤病院の医療機器・検査機器

相澤病院ではたくさんの検査機器、治療機器があります。代表的な機器を一部ご紹介致します。相澤病院では地域の医療機関と連携して患者さんの治療を行っており、これらの機器は、広く地域の医療機関と共同で使用して頂くよう、開放しています。かかりつけ医が必要だと判断した場合、相澤病院に紹介頂くことができます。

陽子線



陽子線治療とは、放射線治療の一種です。放射線は大きく分けるとX線・ガンマ線に代表される電磁波と、陽子線・炭素線などの粒子線があり、陽子線治療では水素の原子核（陽子）を粒子加速器（サイクロトロン、シンクロトロンなど）を用いてエネルギーを高めて治療に用います。陽子線治療は従来の放射線治療よりも副作用が軽くがんの病巣のみに集中した効果が出せ、今まで治療が難しかったがんにも高い効果が期待できます。相澤病院では、陽子線治療の前後にCT、MRI や PET 検査を行うことで、より正確な陽子線治療を提供します。

強力な磁気を利用し、異常が疑われる部分を体の縦、横、斜めなどあらゆる角度から調べる事が出来る装置です。特に脳血管の描出には威力を発揮する装置で、造影剤も使用せず鮮明な画像が得られます。また放射線を使わないため、被ばくの心配もありません。当院では 1.5 テスラ 2 台に加え、より高精度で撮影が可能な 3 テスラを 1 台配置しております。

MRI(エム・アール・アイ)



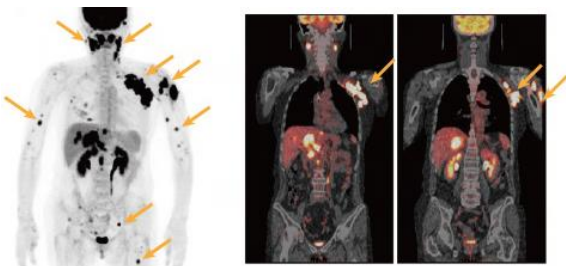
CT(シー・ティー)



CT検査はX線を使用して、身体の中の様子をコンピューター処理して人体の精密な横断像（輪切り）を得る検査です。CTは解像力に優れており、数ミリの病変まで検出することができます。これによりCT検査を行なうことで、病期の早期発見率が向上するのです。

当院ではCTを3台導入し、緊急の検査にも対応しています。また、従来の64列CTに加え、より高画質の320列CTを導入し、正確な診断、患者さんに負担の少ない検査を実施しています。

PET(ペット)



がん細胞は正常な細胞と比べて、約3～8倍のブドウ糖を消費する性質があります。PET検査はその性質を利用してがんを見つけ出します。

特殊な薬剤を体内に注射し、撮影すると、がん細胞が光って映し出され、発見しやすくなります。

